

目次

(105) 共用品推進機構関連記事

- ▽「フリーマーケットと共用品／星川安之」
- ▽「高齢社会と『通信販売』その2／星川安之」
- ▽「ブログを更新しました！」

(106) その他、各種関連記事

- ▽「バリアフリー加速／東京メトロ」

(107) 新刊紹介

- ▽『障害者総合支援法事業者ハンドブック指導監査編
指導監査における主眼事項及び着眼点』
- ▽『障害者グループホームと世話人 言葉と支援とが会う風景の中で』
- ▽『特別支援の必要な子に役立つかんたん教材づくり 29』
- ▽『特別支援教育の基礎理論 第2版』
- ▽『特別支援教育における障害の理解 第2版』

(105) 共用品推進機構関連記事

▼「フリーマーケットと共用品／星川安之」

今回は、フリーマーケット（以下フリマ）を共用品の側面から紹介していきます。

フリマはある意味、障害の有無、年齢の高低にかかわらず使える共用品やユニバーサルデザインの宝庫でもあります。製造販売が終了したものや、海外で買ってきたものなど、一般の流通では手に入らないものを入手できる可能性があるからです。また、フリマの主催は環境問題に取り組むNPO法人が多く、バリアフリーに関しても考慮している機関が増えてきています。

最近では、会場で車椅子使用、杖使用、補聴器使用の人たちを見かけることも増えてきました。主催者の意識がアクセシビリティに向いてきたこと、実際に障害のある人たちがフリマに参加することが増えてきたことで、特にソフトの面でアクセシビリティの方向に向かっていると感じます。

混んでいる場所に車椅子使用の人がくると、さりげなく道をゆずる人がフリマ会場でも増えてきているように思います。また、出店者の中には障害のある人に対しての対応が板についている人も増えています。

耳の不自由人や外国の方などを考慮して、値段をあらかじめ表示したり、電卓に金額を表示したりなど。中には、筆談用のメモ帳を用意している出店者もみかけたことがあります。これらの変化は、障害のある人たちが実際に訪れ、実際に出店者と交渉といったことが行われてきた結果であろうと思います。

(福祉介護テクノプラス 2016年6月号より抜粋)

▼「高齢社会と『通信販売』その2/星川安之」

通信販売において、商品の情報を、その商品を必要としている人に対し、的確に、効率よく、それぞれの人にあった方法で提供するかしないかで、売れ行きに大きな差が出てきます。今回は、それぞれの人にあった情報提供の方法に関して紹介。

共用品推進機構は、年齢の高低、障害の有無にかかわらずなく、使いやすい製品やサービスの普及を目的に事業を行っています。「使いやすい」を知るためには、まず不便なことを知る必要があります。そのため、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、高齢者など多くの人に「日常生活における不便さ調査」を行ってきました。

ホームページやメールマガジンは、弱視の人は、字を拡大する機能や、自分にあったコントラストにする機能を使って情報を得ています。全盲の人はパソコンに「音声ソフト」といって、テキストデータを読みあげるソフトを入れて使用しています。

ただ、写真や図は音声ソフトが入っていても自動的に音声に変換はできません。そのため、言葉で補う必要があります。

また、Webサイト上で、動画で商品紹介をすることは、詳細を知らせるのに有効です。けれど、ナレーションは耳の不自由な人にとって理解することが困難です。そのため、「字幕」で読めるように、その用意しておくことが重要です。

その配慮方法は日本工業規格(JIS X8341-3)として制定されているので、

ご覧いただけたらと思います。

(JADMA NEWS 2016年7、8月号より抜粋)

▼「ブログを更新しました！」

- ・ 中華民国（台湾）行政院視察団 来日
- ・ 日本パッケージングコンテスト表彰式

共用品ニュース（ブログ） <http://www.kyoyohin-news.org/>

(106) その他、各種関連記事

▼「バリアフリー加速／東京メトロ」

東京地下鉄（東京メトロ）は駅のバリアフリー化工事への投資を積み増す。20年の東京五輪・パラリンピック開催や都心人口の高齢化をにらみ、車いすの利用者がエレベーターを使って地上とホームを行き来できるルートを増やす。エレベーターの設置場所を確保するため、地上のビルとの一体再開発も進める。

(日経産業新聞 8月30日16面より抜粋)

(107) 新刊紹介

▼『障害者総合支援法事業者ハンドブック指導監査編
指導監査における主眼事項及び着眼点』

指定障害福祉サービス事業者、指定障害児通所支援事業者等に対する指導・監査指針を示し、実地指導の際の主眼事項及び着眼点を、根拠法令と対応させて3段対照形式で見やすく掲載する。

発行：中央法規出版

本体価格：4000円（税別）

ISBN：978-4-8058-5393-1

▼『障害者グループホームと世話人 言葉と支援とが出会う風景の中で』

障害者グループホームとそこで働く世話人たち。その歴史的経緯や専門性について詳述したうえで、聞き取り調査による〈世話人の生の声〉を対人支援的な視点・立場で考察。日々紡がれる〈支援の風景〉を丁寧に掬い取る。

著：宮本秀樹（みやもと・ひでき）

発行：生活書院

本体価格：2800 円（税別）

ISBN：978-4-86500-056-6

▼『特別支援の必要な子に役立つかんたん教材づくり 29』

マグネットなぞり書き、数字パズル、色と形合わせ、もしもしホース…。障がいのある子どもたちが苦手な領域を克服するための、百円ショップや身の回りの道具で簡単に作れる教材を紹介する。

著：武井恒（たけい・ひさし）

発行：学芸みらい社

本体価格：2300 円（税別）

ISBN：978-4-908637-17-9

▼『特別支援教育の基礎理論 第2版』

障害児教育の基本的視点、特別支援教育の展開、特別支援体制を支える専門性、自立活動の指導など、特別支援教育の基礎理論について解説。最新の動向を整理し、新たに提起された課題を踏まえて内容を充実させた第2版。

編：筑波大学特別支援教育研究センター 斎藤佐和（さいとう・さわ）

発行：教育出版

本体価格：2400 円（税別）

ISBN：978-4-316-80412-5

▼『特別支援教育における障害の理解 第2版』

障害の理解の意義と方法、視覚・聴覚・知的障害や肢体不自由、高機能自閉症等の理解など、特別支援教育における障害の理解について解説。最新の動向を整理し、新たに提起された課題を踏まえて内容を充実させた第2版。

編：筑波大学特別支援教育研究センター 前川久男（まえかわ・ひさお）

発行：教育出版

本体価格：2400 円（税別）

ISBN：978-4-316-80413-2

（編集後記）

9月3日（土）の日本経済新聞夕刊から、月1回、「モノごころ ヒト語り」という連載タイトルで、エッセイを書かせていただくことになりました。執筆者は4名で、それぞれが月に1回担当します。真島麗子さんが「生活道具」、神野善治さんが「民具・有形民俗」、尾崎織女さんが「おもちゃ」、そして私が「バリアフリー・共用品・福祉用具」です。

執筆に際し、編集長から記事の狙いは、

- ・土曜日の夕刊読者に、ほっとする話題であること。
- ・身近なモノへの見方が少し変わるような気付きを促す。
- ・社会面のコラムなので、暮らしとの関連に軸足をおく。
- ・読者の興味を引く写真を添える。

こととされています。

9月3日、私の第1回のタイトルは「シャンプー容器」。はたして、上記条件を満たしているか？ご覧になった方に、そのあたり、ご意見いただけたら幸いです。

なお、同コラムでは、商品名、価格、販売店は原則入れない方針とのことですが、こんな“モノ”がある！という方、是非ご一報いただけたらと思います。（星川安之）

共用品推進機構公式サイト <http://www.kyoyohin.org/>

共用品ニュース（ブログ） <http://www.kyoyohin-news.org/>